

夢づくり協働推進事業の実施状況 10

事業名

「備中子育て晴れの国づくり」 備中子育て晴れの国交流会
協働子育て支援学会（研究会）

事業の概要

子育て支援に関係する「産」「学」「官」「民」分野の様々な人々が出会い、学び合うことによる「知りあい、支えあい、高めあう」つながりづくり、次代を担う子どもたちが心豊かで健やかに生まれ育つ環境を目指し、地域全体でつながり支える子育てについて理解を深めあう「備中子育て晴れの国交流会」を開催した。

また、あわせて子育て支援に関する大学等専門機関の研究者と実践者による「協働子育て支援学会（研究会）」を開催し、大学等の研究・地域活動・行政施策の連携強化を図った。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
岡山県立大学保健福祉学科（准教授）	講演、意見交換、交流等（交流会第1回）
NPO法人子ども劇場笠岡センター	会の企画・実施（交流会第2回）
にいみ子育てカレッジ	現地見学の実施（交流会第3回）
小ざくら地域子育て支援センター 子育て応援っこ	活動紹介（交流会第3回）
NPO法人びーのびーの（事務局長）	講演、グループワーク実施（交流会第4回）
岡山県立大学保健福祉学科（准教授） 新見公立短期大学幼児教育学科（助教） 倉敷発達障がい者支援センター（センター長）	研究発表、意見交換、交流（協働子育て支援学会）
地域子育て支援拠点関係者、NPO法人、子育てボランティア、大学関係者、主任児童委員、親子クラブ関係者、子育て中の親、管内市町 等	受講、グループワーク等における進行・意見交換、交流
備中県民局	交流会の実施、受講、グループワーク等における進行・意見交換、交流

実施状況

【第1回交流会】

管内市町子育て支援担当者を対象とし、地域子育て支援拠点の意義・役割を通し「子育て支援」を理解し合いながら、課題を共有し、解決への足がかりとなるつながりづくりを行った。

(1) 日時：平成21年5月22日（金）

(2) 場所：備中県民局会議棟

(3) 内容：講演、グループワーク

(4) 人数：19人



【第2・3回交流会】

管内において子育て支援に実績のある者と協働し、子育て支援に取り組む者又は関心のある者を対象とした取組事例見学会を行った。

あわせてグループワーク等を実施し、参加者の情報・意見交換等を行い、子育て支援に関わる者のつながりづくりを推進するとともに、それぞれのスキルアップ及び課題解決への足がかりとした。

第2回

- (1)日時：平成21年8月26日(水)
- (2)場所：NPO法人子ども劇場笠岡センター（笠岡市）
- (3)内容：施設見学及び活動紹介、グループワーク
- (4)人数：32人



第3回

- (1)日時：平成21年12月11日(金)
- (2)場所：にいみ子育てカレッジ（新見市学术交流センター内）
- (3)内容：活動紹介及び施設見学、参加者活動発表、グループワーク
- (4)人数：51人

【第4回交流会】

つながりを持った地域全体での子育て支援についての講演、様々な子育て関係者、同じ立場の子育て関係者との出会い、学び合いのための情報交換を行った。

- (1)日時：平成22年2月5日(金)
- (2)場所：備中県民局会議棟
- (3)内容：講演、グループワーク
協働子育て支援学会
- (4)人数：51人



【協働子育て支援学会（研究会）】

第4回交流会開催にあわせて、子育て支援に関する3名の大学等専門機関の研究者等による発表を行い、研究者と実践者等とが近い距離で意見交換を行うことにより、大学等の研究・地域活動・行政施策の連携強化を図った。



成果・効果

【備中子育て晴れの国交流会】

- 1 様々な分野の子育て・子育て支援に関わる方々が一堂に会し、講演・グループワーク・交流・現地見学等を行う交流会が、平成21年2月にスタートしたが、継続参加者はもちろん、新規参加者も加わり、子育てを通じたつながりが着実に広がりつつある。
- 2 参加者からは、以下のような感想が多数寄せられている。
 - ・交流会で顔を合わせた方には、普段でも連絡がとりやすくなり、困った時に気軽に相談できる関係ができて、つながりを実感している。
 - ・色々な立場の方々と様々な問題を討論でき、貴重な話を聞いて、大変勉強になるので今後ともこの取組を継続していただきたい。
 - ・みなさんから様々なアドバイスをもらい元気づけられ、今まで気づかなかった考え方・手法を知ることができた。
 - ・お互いに会話をする中で、子育てひろばに来られるお母さんたちが普段感じている子育ての不安感・孤立感を肌で感じて勉強になった。
- 3 交流会を通じて、相互理解の重要性とつながりをもった子育て支援の意義が認識され、地域全体で子育てに取り組む気運が高まるとともに、交流会の目的であるつながりづくりや会の必要性を再認識することができた。

【協働子育て支援学会（研究会）】

- 1 普段なかなか接する機会のない、大学等専門機関の研究者と知り合い、つながりづくりができた。
- 2 専門機関研究者の豊富な情報や広い視野からの研究、実践発表を聞くことにより、子育て支援関係者がこれまでの自己の取組を振り返り、今後の活動などに役立てていくきっかけづくりとなった。
- 3 研究の取組内容が、今後の行政施策を展開するためのヒントになると感じた。